

a 学校教育目標	郷土を愛し、 自らの役割を見つけ、 全力で伸びようとする児童の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)「知・徳・体」の基礎基本を身につけ、郷土の発展を願う児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像)・児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着をさせる学校 ・自己を愛し、健康でたくましく活動する児童を育成する学校 ・郷土のよさと課題を知り、その発展のために、地域を支え得る人材を育てる学校
----------	---	----------------------	---

評価計画					自己評価				改善方策	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
					h 達成	h 達成					イ	ロ	ハ	
確かな学力の向上	学ぶ楽しさを味わえる学校 (児童の「～たい」を起点に、「～できた」「～なれた」の実現)	1 学習の動機付けを工夫し、ゴールイメージを明確に持たせる。 2 ゴール達成に向けた授業展開を図る。 3 学習後の振り返りを適宜行う。	・ゴールイメージを明確に持たせるよう、学習の動機付けを工夫した単元の割合 ・学習後「～できた」「～なれた」という意識を持たせた回数 の割合(自己評価結果)	全単元の50% 工夫をした単元で半分以上肯定的に回答した児童80%	68%		100%	A	①単元のめあての共有化 ・単元ごとにつけるべき力を児童と確認することで、目指す姿を意識した学習に取り組みせることにつながった。○ ②授業時間の不足⇒学習後の振り返りの時間の確保▲ ・「～できた」「～なれた」という視点での振り返りを、取ることができていない時間もある。	①③見通しをもった単元計画と問題解決学習の取り組みの継続 ・教師の細やかな教材研究のもと、児童の主体的な学習を支える授業展開を計画する。 ②振り返りの手立ての工夫 ・学習内容に応じて適用問題、家庭学習を活用するなどして振り返りのもち方を工夫し、「～できた」「～なれた」の視点で自己の成長を自覚したり、次の思考を促したりすることができるようにする。 ④「漢字検定」に向けた学習計画とシステム化 ・年間スケジュールにそって、計画的に取り組む。 ・タブレットを活用するなどして児童が自主的に取り組めるようなシステム化を図る。	5			・適正に評価されている。 ・学力の向上に向けての計画が、具体的に分かりやすい。児童に意識づけられているのが良い。 ・漢字検定の合格を目指すことは、苦手な漢字の習得にもつながり、有効であると思う。
	既習事項を学習や生活に生かす学校	1 「漢検」受験に向けた漢字学習を展開する。 2 既習事項を踏まえた学習活動の設定を図る(国算理)。	・受験した級を合格した児童の割合 ・既習事項を踏まえて学習を行った授業の割合	80% 全単元の50%	20% 67.7%		20% 100%	D A	③問題解決型学習の取り組み ・複式の学習スタイル⇒前時までの学習との比較から気づいたことをもとに学習を進める授業形態が整いつつある。○ ④「漢字検定」受験に向けた学習の計画的な取り組み・システム化 ・各学年ごとに任せており、組織的な取り組みになっていない。▲		5			
豊かな心と健やかな体の育成	他者の良さや頑張りに基づき、学び合う雰囲気形成(継続)	1 各自の得意なこと、上手なことを推薦し合い、「〇〇マイスター」として認定し、廊下へ掲示する。	・他者の頑張りに基づき、推薦できる児童の割合 ・他者の頑張りに基づき、自らの取組に生かした児童の割合	達成児童100% 達成児童70%	40%		40%	D	①他者の頑張りに基づかせる取組 ・1学期は、各学級ごとに帰りの会・学活などに友達の頑張りや良いところを認める時間を設けて取り組んだ。 ⇒日々の友達のがんばりを見つけ合うことはできた。○ ⇒取組が学級にとどまり、他者の頑張りや自らの取組に生かすまでに高められていない。また、見つけ合った頑張りや可視化することができていない。▲	①学校全体の取組への拡充 ・「頑張り見つけ」に取り組む時間を学校全体で設定し、毎週必ず実施する。見つけ合った頑張りや速やかに掲示する。 ⇒良さを推薦し合ったり、他者の頑張りや自らの取組に生かしたりする行為を、教師からの「ほめ言葉」で具体的に価値づけしていく。 ②取組状況の「見える化」の充実 ・「めざす姿」と「努力目標」を明確に持たせ、取り組み、頑張りや認め合う活動を充実させる。 ⇒学校行事に向けた取組や体力向上、日々の生活目標などの取組とリンクさせ、意識づける。	5			・適正に評価されている。 ・お互いの良さを認め合ったり、目標の達成を支援したりする教育の推進がすばらしい。 ・きめ細やかに取り組むことができる小規模校の良さを生かしている。
	自身の立てた目標に向けて、努力を惜しまない児童の育成(継続)	1 もっと成長したいと思わせる場の設定を工夫する。 2 目標と取組状況が見える化し、努力を称賛する。	1年間の目標を立て、継続的に努力した児童の割合(観察・アンケート)	達成児童80%	80%		80%	B	②各学級において1学期の目標設定と振り返りの実施 ・各学級ごとに、学習・生活・体力づくりなどの目標を立て、意識づけながら生活を送ることができた。○		5			
信頼される学校	佐木島の学校として地域住民の心の拠り所となり、必要とされる存在となる	1 具体案(プラン)を作成する。 2 町内会長組織・PTAへの協力依頼とPR活動を行う。 3 申込書を作成・配布し、応募者(登録者)リストを作成する。	・「鷺浦小学校応援団(仮称)」登録世帯・事業所数	100軒以上	20%		20%	D	①児童と地域住民とつながりを深める取組 ・学校だよりでのPR活動、「鷺浦小学校応援団」登録世帯・事業所に配布するポスターの作成。ポスターには、児童の似顔絵・地域住民へのメッセージを掲載。⇒学校の取組、全児童の名前や思いを知っていただく○ ・町内会長組織等への多方面へのPR活動を実施できていない▲	①取組の計画的な実施 ・今後、各組織等への協力依頼、PR活動を計画的に実施し、登録者リストを作成する。 ①地域とのつながりを深める取組の工夫 ・地域行事が中止のなか、学校の取組等を伝える方法を工夫して定期的に発信する。(HP、学校便り、掲示板等) ⇒地域から信頼され、応援される学校づくり ②・③・④取組の継続・充実 ・校務支援システムの有効活用 ・ICTを活用した事務処理能力の向上等にかかわる研修の充実	5			・適正に評価されている。 ・「鷺浦小学校応援団」への登録に向けての活動を、地域住民も支援していきたい。 ・行事が少なくなった今、学校と地域とのつながりを、どのようにして作っていくのが課題である。
	教職員の勤務時間外在校時間の縮減(年間360時間以内)	1 緊急時を除き、勤務時間外の用務を設定しない。 2 勤務時間内に事務処理時間を確保する。 3 行事の精選・見直しを進める。 4 効率的な職務遂行を推進する。	・個別の勤務時間外在校時数の積算	月30時間×実施済月数以下100%	85.6%		85.6%	B	②優先度の高い業務に専念する環境の確保 事務処理、教材研究等の一斉実施 ⇒勤務時間外在校時間の縮減○ ③週一定時退校や自己目標の設定等の取組の定着 ・意図的・計画的業務遂行⇒教員のタイムマネジメント能力の向上 ④効率的処理を可能にする組織体制 ・相互サポート、組織対応○		5			

【j:自己評価 評価】

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。